

健全な地域間競争に資する国内交流基盤 (交通基盤)に関する現状と課題 (論点)

< 主な資料のポイント >

1. 交通基盤整備状況と交通流動
2. 全国 1 日交通圏等の全総計画における構想の達成状況
3. 地域ブロック別の交通基盤整備と競争力
4. 交通流動から見た地域ブロックの形成
5. 高度道路交通通信システムの進展

- ・ 高速道路、新幹線、空港、港湾といった総合的な交通基盤整備が全国的に進められ、経済成長に伴い増加する貨物・旅客の流動を支えてきた。
- ・ 経済成長と共に増加してきた国内旅客・貨物輸送も、近年は横這い傾向にある。
- ・ わが国は諸外国に比べ、1 人当たり総移動距離はまだ少ない。また、旅客においては鉄道による移動、貨物においては海運による輸送が多い。
- ・ 近年は、高齢者、女性の旅客移動が増加している。
- ・ 全国 1 日交通圏は約 6 割の地域で達成されている。また、地域半日交通圏は概ね 9 割の地域で達成されている。地方空港の国際化により、東アジア 1 日圏も約 8 割の地域で達成されている。
- ・ 地域ブロック別に見た 1 人当たり GDP の格差は縮小しているが、製造品出荷額、製品輸出入には依然地域差が現れている。
- ・ 商業年間販売額を見ると、地域ブロックの中心となる都府県において高くなる傾向が見られる。
- ・ 高速道路整備の進展により、高速道路利用交通による圏域構成は、概ね地域ブロックと同程度のまとまりを示している。

< 主な論点 >

これまで整備されてきた国内交通インフラを活かした、地域間競争をどのように捉えるか。今後、地域間競争に交通インフラは重要な役割を果たしていくのか。

1. 交通流動が成熟しつつある中で交通基盤整備にかかる課題はなにか
2. 全国 1 日交通圏等の全総計画における目標の達成状況をどう考えるか
3. 地域間競争を支える交通基盤はどのようなものが必要か
4. 交通流動から見た地域ブロック形成をどのように考えるか

健全な地域間競争に資する国内交流基盤に関するの現状と課題（論点）
（情報通信分野）

< 主な資料のポイント >

- 1 . 国土の隅々まで高度な情報通信インフラが整備されているか
- 2 . 情報通信インフラの利用状況はどうなっているか
- 3 . 情報通信インフラは活用されているか
- 4 . 情報通信技術の進展により社会はどう変化していくか

- ・ 固定電話加入者は、1996 年度以降減少傾向。携帯電話加入者は急激に伸びてきたが、増加数は減ってきている。
- ・ 加入者系光ファイバ網の整備は進んでいるが、人口 10 万人以下の地域においては、普及が遅れている。
- ・ インターネットの普及は急速に進んでいるが、ブロードバンドの加入者数には地域的な偏りがある。
- ・ 電話料金は OECD 諸国の中で、高い水準にあるが、ブロードバンド料金は、非常に安い水準にある。
- ・ 都道府県間の通話の流れは、概ねブロックの中心的な県との交流の他に、東京、大阪などの大都市部への交流がある。特に固定電話における東京の拠点性が高まっている。
- ・ インターネットの利用状況について、人口 5 万人以上とそれ未満で差がある。
- ・ インターネットコンテンツビジネス、電子商取引市場も拡大傾向にあるが、阻害要因も大きい。

< 主な論点 >

- 1 . 情報通信インフラの整備状況における地域格差の課題は何か。
- 2 . 高度な情報通信インフラが活用されるための課題は何か。
- 3 . 地域の活力を支える情報通信インフラの課題は何か